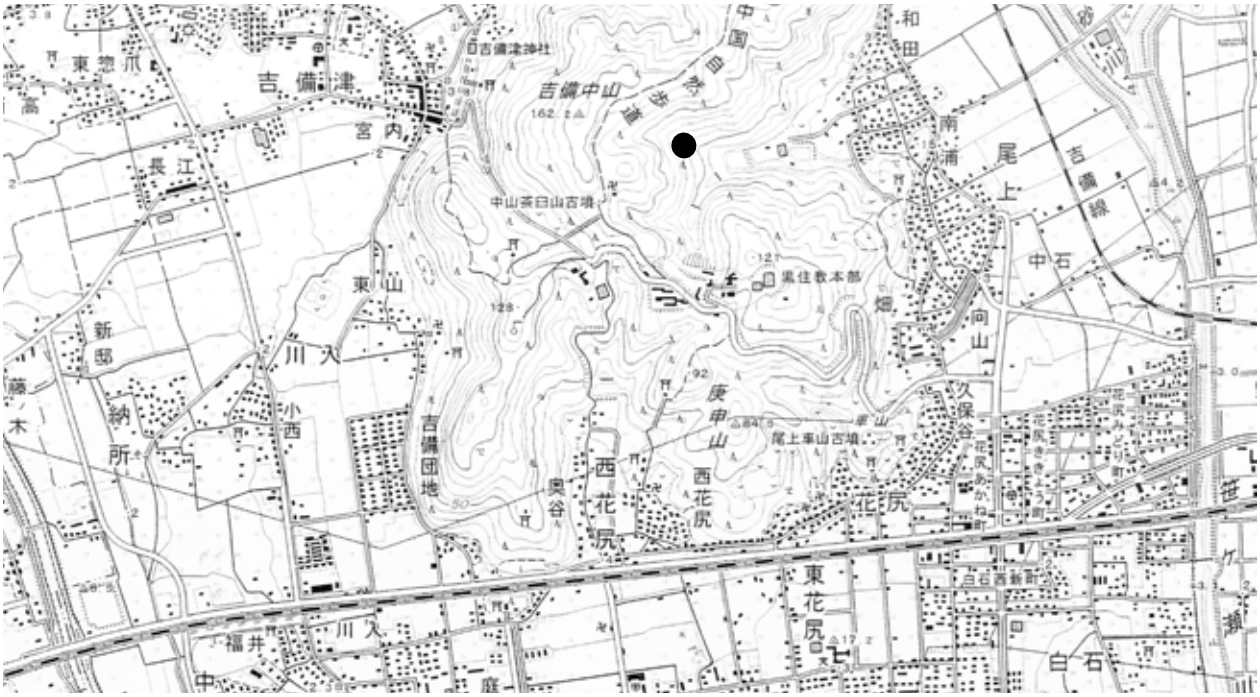
遺跡紹介

石舟塚古墳

寒川史也

【遺跡の位置】



S=1/25,000

【遺跡の概要】

石舟塚古墳は、吉備の中山の山中、前期古墳である中山茶臼山古墳より東の谷を下った場所に独立して存在する。その途中には他にも数基の古墳があり、こちらは古墳群を形成している。また、石舟塚古墳は東に開く谷地形の奥まった位置に所在し、終末期古墳に特徴的な立地のあり方を示す。

墳丘は、測量の成果等から方墳の可能性があり、墳頂部は平坦面が広がっている。古墳は背面の尾根地形をカットし、築かれるといった墳丘成形のあり方が考えられる。墳丘のほぼ中心に位置する石室は、南向きに開口しており、袖部をもたない無袖式の横穴式石室である。内部には、土砂の流入や小石材の集積もあり、後世に改変があった痕跡がみとめられる。石室規模は、長さが約 5.9m、幅は奥壁側で 1.5m を測り、奥壁は大ぶりな石の上に石材を重ね 2 段となる可能性がある。また、両側の側壁も 2 ～ 3 段に石材が積まれていることが確認できる。

現在、石室内には兵庫県の西部で産出する竜山石でつくられた刳抜式家形石棺の身の部分が残されている状態で、長さが 2.02m、幅は 1.0m を測っている。また、セットとなる蓋は、麓の JR 備前一宮駅に運ばれており、現地において観察することができる。この種の石棺は、県南部では旧備前国側に集中する傾向があり、吉備の中山もしくはその周辺でも多くの例が確認され、古墳時代終わり頃の地域における有力者の動向を考える上で重要な資料となる。

石舟塚古墳の築造時期は、発掘調査による出土遺物などの情報には欠けるものの、墳形や石室等の内容から 7 世紀前半段階に下るものと推測できる。

【文献】

岡山市教育委員会 2016 『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要』第 8 号

【交通】

岡電バス「神道山」下車　徒歩 20 分

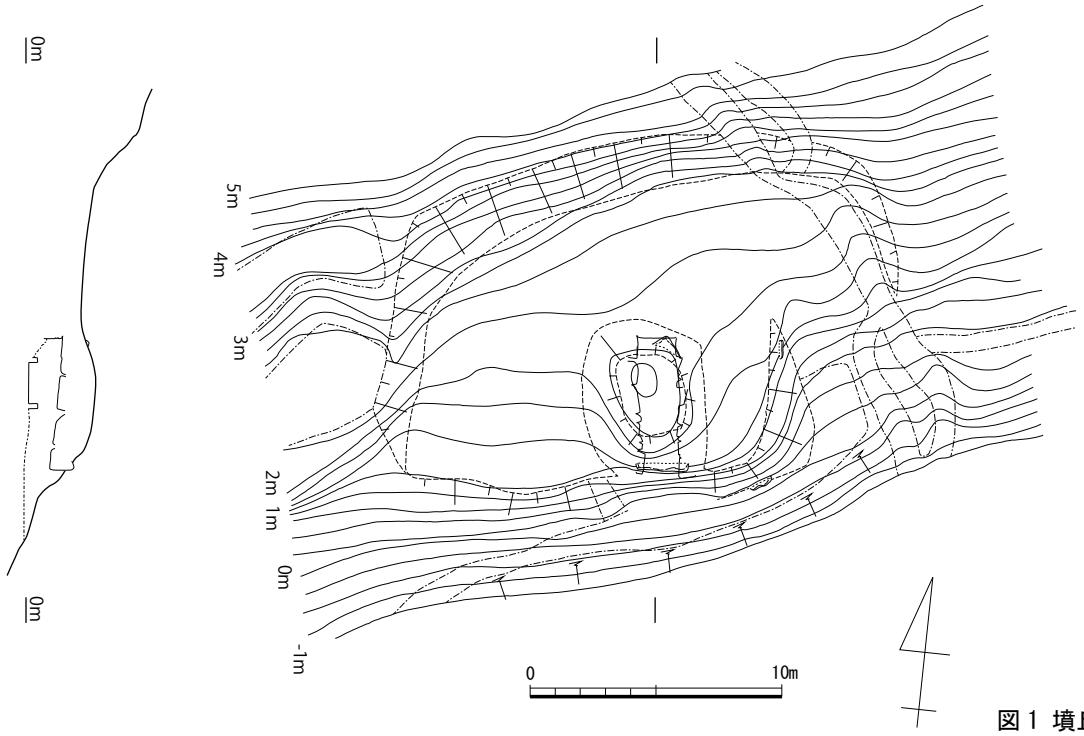


図 1 墳丘測量図

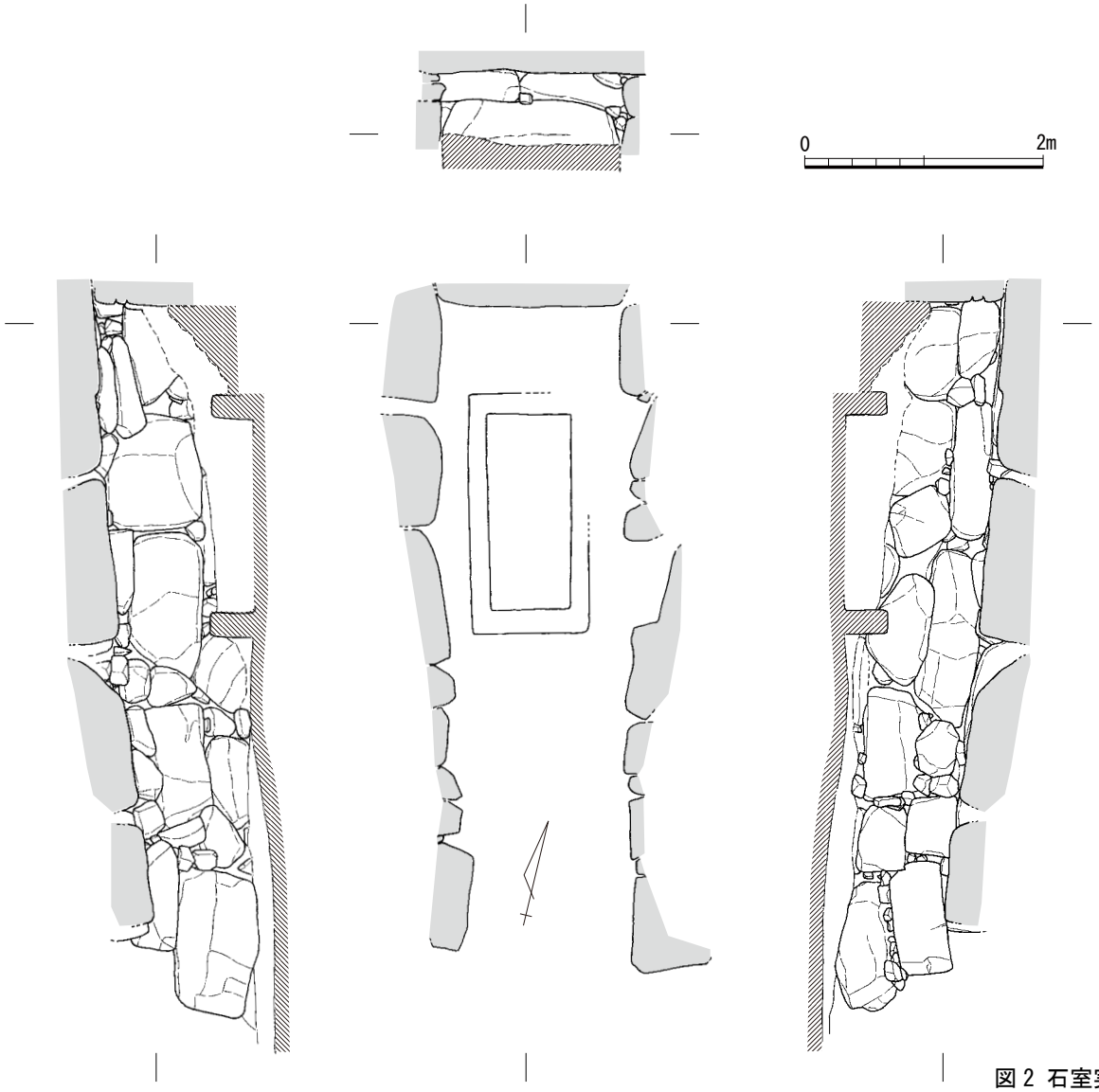


図 2 石室実測図